

吉野川 フライング 2007

フライト（1日目）

試乗会やフリーフライトを楽しんだ後は、恒例のゲームフライトです。新開発のその名も「ビンゴ」。誰でもが楽しめるゲームです。地図上に示されたチェックポイントに吹流しを立ててあり、フライトしながら、時間内にその場所を探して着陸し、吹流しの根もとにあるバックから「ビンゴカード」を取って戻ってくるものです。行かなかった人は1枚、行った人は2枚と集めたカードの数だけ抽選が有利になります。遠くに降りて吹流しの所まで一生懸命に走る人、すぐそばに下りてエンジンを背負ったままカラビナも外さないでビンゴカードを取って行く人、一度着陸するとなかなか飛び立てない人もいて、チョコット技量も要求され、意外と面白かったです。



安全研修会（2日目）

救急救命法の講習から始まり、空域については自衛隊、送電線については四国電力と講義をいただき、有意義な研修会となりました。

電線接触事故は、電線の場所を、知らない、気が付かないことから発生します。事前に送電線、配電線の場所を確認しておきましょう。

着水事故は、研修会参加者の中に該当者がいて体験談をきいて身の引き締まる思いをしました。着水時の衝撃で肺の中の空気が出てしまい、苦しい息の中で泳ぐと、キャノピーのラインが絡み付きどうする事も出来なくなり、死を覚悟し、薄れていく意識のなか、船に助けられたそうです。「今度、海に落ちたらどうしますか？」との質問には「前と同じ事しか出来ません。」との回答でした。結論としては、浮力体が必要不可欠との事でした。

エンジン始動時の事故は、新聞報道などは殆ど有りませんから知らない人が多い様ですが、エンジンを背負いやすい様にと台の上においてエンジンをかけていて、自分の方へ落ちてきた例や、前日ユニットを下ろしたときにスロットルレバーが地面とユニットに挟まれスロットルレバーの軸が歪み、翌日エンジンをかけた時スロットルが引かれた状態でプロペラが回り出し、倒れた例など、真剣に話あわれました。

